

「もの派」中核・菅さん
木枠用い多彩に表現

六本木で個展

木や石などの素材をそのまま使う「もの派」の中核作家で、半世紀に及ぶ創作活動に国際的注目が高まる美術家の菅木志雄さん(75)の写真。「測られた区体」と題する新作個展が東京・六本木の小山登美夫ギャラリー(03・6434



・7225)で開催中だ。

近年力を注ぐ、カンバスを思わせる木枠を使った作品を中心に約20点を披露。別の木をはめ込んだり、格子状に重ねたり、流木を並べたり、石を組み合わせた。驚くほど多様な構造が中に出現している。一見平面的な作品は、じっくり鑑賞すると彫刻と通じる空気との相互作用や周囲との関係へ目を向けさせる。

自然豊かな静岡県に住み、素材を探りつつ歩く散策が日課の菅さん。「例えば同じ木の枝でも大きさや表情、ニュアンスはみな違う。『もの』と『場所』のリアリティーをどう引っ張り出すか、考え続けている」と話す。深化する世界観が展覧からうかがえる。20日まで、日・月・祝日休み。【永田晶子、写真も】

国	作家	執筆者	文献タイトル	媒体名	発行日	頁	発行元	展覧会名
J	菅木志雄	永田晶子	「もの派」中核・菅さん 木枠用い多彩に表現	毎日新聞	2019年7月3日	p.4	毎日新聞	